

こういん

や

すみ

光陰は矢よりも速やかなり

しんめい

つゆ

もろ

身命は露よりも脆し

『修証義第五章行持報恩』より

「未来への時間は、無限に有る様に思えるが、過ぎ去った時間を考えると、まるで矢が飛んで行く様に速い、人間の命は、朝日に照らされて光る、水玉よりもはかないもので有る。」

これは修証義の第五章の行持報恩の一節で有る。

『光陰は矢の如し』皆さん、学生時代の夏休みを思い出して下さい。四十日間の長かったこと、ところが壮年になってからの一年間の短いこと、この間年賀状を出したと思ったら、もうお彼岸なのですね。与えられた日々を大切にしていけないと本当にもったい無いと思います。

『身命は露よりも脆し』人の命は地球よりも重いと云いますがその命が何故水玉よりもろいのでしょうか。

私も一月に大切な命を亡くしました。八十八歳の母が他界したのです、数年前から痴呆の症状が現れ次第にそれが進行し、前にいる自分の息子が誰で有るかわからなくなりました母、哀れみの余り「いつそのこと早くお迎えが来てくれた方が本人の為ではないか」とさえ思うことが有りました。

然し、その命の偉大さが解ったのはもう二度と話すことが出来なくなってしまった後だったのです。この後悔・無念さの大きい事、是れこそが身をもつて体験した母の命の大きさで有りました。

我々が住んでいる地球、大変大きいものですが、光の速度で進んでも何百億年も掛かる宇宙から見たら本当に小さいもの、果てしない宇宙の中に居る自分の命は本当に水玉より小さい命ですが、親が居てからこそ出来る親孝行、その孝行が出来なくなつて初めてわかった、親の命の大きさでした。

『修証義』と云うお経は、曹洞宗の開祖道元禪師が宋（今の中国）へ渡り、天童山の如浄和尚に師事し、『佛祖正傳の大戒』すなわち、お釋迦様直伝の佛法（教え）を学び、道元禪師が理解したお釋迦様の教え、いわゆる仏教を、弟子の孤雲懷奘大和尚が『正法眼蔵随聞記』と云う教典に書き記して残されたものです。

『正法眼蔵』はその難解さ故に明治時代に平易な口語体書き改められたもので、第一章から五章迄有り、曹洞宗の教義（おしえ）の全てが網羅されています。
標題の「光陰は矢よりも速やかなり、身命は露よりも脆し」の一節は、第五章「行持報恩」（永遠に生きる平安）の第三十節の冒頭に有ります。

光陰は

矢よりも速やかなり

身命は

露よりも脆し

— 修証義 —

曹 洞 宗

神奈川県第二宗務所
第五教区 布教部・出版部